

通信小海

現代の偶像

牧師 水草修治



JR西日本福知山線で悲惨な脱線事故が起きた。事故の背景があまりにされていくにつれ、背景に会社の価値観、ひいては現代日本の価値観があることに気づかされる。それは、安全よりもカネという価値観である。同社では「第一に稼げ、第二に安全」というポスターが各所に貼り付けられ、そのスローガンに則って、会社全体が運営されていた。五月末になってようやくそのポスターが撤去されたという。

「安全はもちろん大事です。しかし、企業である以上、利益も重要なのです。」という答弁を同社の責任ある人がしていたが、では

今月の御言葉

「人は、たとい全世界を得ても、いのちを損じたら、何の得がありません。」

マルコ八章三十六節

日本同盟基督教団小海キリスト教会

牧師 水草 修治

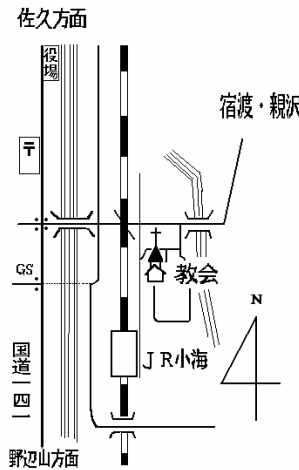
会堂・牧師館 南佐久郡小海町大字小海四三五 二七

千三八四一一二 二六七九二四七七六

カネと安全とどっちが大事なのかといえば、結局カネのほうが大事だとそのポスターは言っているのである。安全とは、言い換えれば人命ということにはかならない。人のいのちよりカネが大事だということである。

しかし、よく考えてみれば「カネが第一、いのちが第二」というありかたは、JR西日本だけでなく、日本全体に染み込んでしまっている恐ろしい価値観ではなからうか。たとえば、輸入牛肉の問題にしても結局、カネが第一、いのちが第二という結論になってしまった。イラクに派兵をするにあたって、新聞記者が自衛隊員の安全性について疑問を呈した時、防衛庁長官が血相を変えて言ったことを思い出す。「あなたたちだって、石油が必要でしょう。」要するに人命よりカネだということである。多くの企業で無理なリストラが行なわれ、一人の社員に対する負担が限度を超えて、過労死が増えているのも人命

見晴台の教会へどうぞ



集会あんない

日曜日 サンデースクール 午前八時四五分

朝礼拝 午前十時から十一時半

夕礼拝 午後八時から九時

水曜日 祈り会 午前十時半と午後七時半

*海尻・川上で毎月家庭集会あり。

*個人的な聖書勉強や個人的なご相談にも乗ります。

よりもカネということである。

ひとごとでなく、私たちは自分自身の仕事のありかた、子どもの育て方、事柄の優先順位のつけ方の中に、「人命よりもカネが大事」という価値観が入り込んでいないかどうか吟味する必要があるのではなからうか。そうでないと、私たちもまた人生の脱線事故を起こし犠牲者を生んでしまいかもしれない。

主イエスは、カネを愛する者はカネを神としてあがめる偶像礼拝に陥っているのだとおっしゃった。

「だれもふたりの主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛したり、一方を重んじて他方を軽んじたりするからです。あなたがたは、神にも仕えまた富にも仕えるということではできません。」(マタイ六・二四)

また、こうもおっしゃった。

「人は、たとい全世界を得ても、いのちを損じたら、何の得がありません。自分のいのちを買い戻すために、人はいったい何を差し出すことができるでしょう。」(マルコ八・三六・三七)

福音指圧教室に

どうぞぞ

今年は雨が少ないぶん、畑仕事の休みがなくてからだに無理をさせていませんか？ そのペースでは夏本番が持ちません。福音指圧教室にどうぞ。

六月十九日(日) 午後二時から三時半
持ち物: バスタオル、タオル、靴下

通信発行のために

「いつも『通信小海』を楽しみに読ませていただいていますので」と献金を送ってくださいな方がいました。筆者は読んでいただけだけでも感謝のにと、励まされました。もし同じ志ある方がいらつしゃれば、左の郵便振替をご利用ください。ちなみに『通信』は八千穂以南の南佐久郡五千三百五十全戸に折込配布されていて、総費用約二万七千円です。

〒0530061683 小海キリスト教会

「野宿者炊き出し支援」

信州から野宿者支援



南相木村のYさんがお米をたくさん届けてくださいました。精米済みでしたので、早速翌々日の炊き出しに使わせていただきました。ありがとうございます。ご住所も聞けませんので紙面でお礼申し上げます。また、未使用の割り箸・切手もお願ひしています。

*活動報告書「ひびき」は高原のパン屋さん
教会に置いてあります。

山谷農場新事務局(藤田 寛)

小海町芦谷ヒルサイドコーポ一 二号室

毎週金曜・土曜はおります。

電話090・1436・6334

〒974042・786・2088

メール nyoro@beige.ocn.ne.jp

カンパ行振替 一四 四五三七九六

草むらのゴミ、

白く塗られた墓！



先日、鉄橋下の草刈をしていたら、草むらの中から、出るは、出るは、空き缶、空き瓶、古新聞、「コンビ二弁当の箱などで、大きなごみ袋がたちまちいっぱいになってしまった。人通りが少ない場所、草に隠れる場所だからというので、捨てて行くらしい。しかも「ポイ捨て禁止・小海町」という看板のすぐそばに、である。

最初、「どんな輩が捨てたのだろう。」と少々腹立てながら草を刈っていた。が、考えてみれば、自分だってこんなふうに入目につかないところは、きれいに掃除していいことに思い当たった。裏の物置の中などひどいものだ。人が見ていない、自分でもめつたに見えない場所は掃除の意欲が湧いてこない。元来、筆者は掃除とか草むし

りが苦手なズク無しで、私が草むしりをしたあとは、なお草ボーボーなのである。

「草むらの中のゴミ」とつぶやきながらゴミを拾っていたら、ふと主イエスの「白く塗られた墓」ということを思い出した。「あなたがたは白く塗った墓のようなものです。墓はその外側は美しく見えても、内側は、死人の骨や、あらゆる汚れたものがいっぱいのように、あなたがたも、外側は人に正しいと見えても、内側は偽善と不法でいっぱいです。」あの優しいイエス様がなんと厳しいことばを発せられたことだろう。

白く塗られた墓！このイエス様の嘆きと叱責をまず聞かねばならないのは、実は牧師である私自身なのである。なぜなら、イエス様のことは、パリサイ人・律法学者と呼ばれる、当時の社会における聖書の教師たちに向けられたものだったからである。主イエスは、彼らの偽善性を見抜いて、激しく非難なさったのだった。

「先生」と呼ばれる立場の人たちの子どもは育ちにくいと言われることがある。それは周囲が「先生の子どものものに」とブレッツチャーを与えるせいでもあるのだが、恐らくそれ

以上に、子どもが親の生活の偽善性につまずくからではないだろうか。人前では立派そうなことを言いながら、家庭生活ではまるで反対のことをしているじゃないかと腹を立てるからではなかるうか。

我が家の子どもたちは、今のところ神様を見上げてまつすぐ育っているようだが、これは神様のあわれみ以外の何者でもない。私は愛を説き愛を実践したいとせつに望みながら、現実には愛の欠けた者である。思いやりを説きながら、つい思いやりのないことを言ってしまう者である。ただ、イエス様が私の心の中で「おまえが悪い。言いすぎだぞ。」と叱られた時には、「さつきはごめん。言い過ぎたよ。」と息子や娘にに詫びることを心がけるくらいしかできていない。

ああ、振り返ればイエス様は文句も言わないで、毎日毎日、私の汚ないゴミだらけの心の中や生活を掃除してくださっているのがある。なんとありがたいことが。年に一度や二度ゴミ拾いをしてなにを偉そうにブツクサ言っていたのかと、恥ずかしくなっていました。



【幸福な家庭】

食と幸福



あなたにとって「おふくろの味」は何？

読売新聞社が行なった「家庭の食卓」に関する全国世論調査で、「おふくろの味」と聞かれて、最も多かったのは「肉じゃが」19%、「みそ汁」16%、「煮物」15%、「カレーライス」4%、「芋の煮つ転がし」3%など、飽きのこない素朴なものが上位を占めたという。また、家族そろって食事をとることが「大事」と思っている人は96%に達したが、実際、家族そろって夕食をとっている人は45%と半数に満たなかったそうである。

子供時代、カレーライスが好物だった。小学校二年生か三年生の頃、五林もカレーライスを食べて動けなくなって、大の字になって風船のようになつたおなかをさすりながら、うなっていたことがある。この

話をしたら「おかあさん、よくもまあそんな暴食をよく許してくれたものねえ。」と家内が笑う。そういえば、あのときも家族に笑われただけで、叱られた記憶がない。

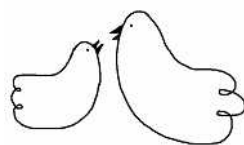
拒食・過食は、母親との心の葛藤があると起きがちな症状だという。子どもにとって、母と食べ物には深いつながりがあるのだ。それは女がいのちを育む性であることを意味している。事実、聖書は、女を「すべてのちあるものの母」と呼んでいる。父の役割が人生の指針を示すことだとすれば、母の役割とはいのちを生み出し、いのちを育むことである。家族の健康を気遣い、食事の用意をすることは、神様が母に託された尊い務めなのである。

このことは、お母さんだけでなく、まず夫が理解すべきことである。もし幸福な家庭を望むなら、夫は、カネを稼いでくることだけが価値ある仕事であるというような狭い見方はきっぱり捨てよう。そして、食卓で「これはつまみ！」と言うことである。

「あなたの妻はあなたの家の奥にいて、豊かに実を結ぶぶどうの木のようにだ。あなたの子らは、あなたの食卓を囲んで、オリーブの若木のようにだ。見よ。主をおそれる人はこのように祝福を受ける。」詩篇一一八・三・四

拳式はリエックスで

93 2218担当 中村茂樹



誓約のことは

「はい。わたしは神の教えにしたがって、夫としての分を・妻としての分を果たし、その健やかなるときも、病めるときも、富めるときも、貧しきときも、さんを愛し、敬い、慰め、助けて変わることなく、このいのちのかぎり、堅く節操を守ることが神と証人の前で誓います。」